

## 29P1-pm002

北陸大学における3年次生までを対象とした早期体験学習の実施

○高野 克彦<sup>1</sup>, 毎田 千恵子<sup>1</sup>, 倉島 由紀子<sup>1</sup>, 鈴木 宏一<sup>1</sup>, 松原 京子<sup>1</sup>,  
山崎 眞津美<sup>1</sup>, 今井 弘康<sup>2</sup>, 安池 修之<sup>1</sup>, 宮本 悦子<sup>1</sup>, 中川 輝昭<sup>1</sup>(<sup>1</sup>北陸大薬,  
<sup>2</sup>北陸大教育能力開発セ)

【目的】薬学部の6年制に先駆け、本学では平成12年度より早期体験学習を実施してきた。3年次までの入学後「早期」から、4年次以降に開始される事前学習など臨床に近い教育へと有機的に継続性を持たせた教育を実施すべく、1年次でモチベーションを向上させ、3年次生まで維持することを目的とした早期体験学習を実施した。

【方法】実施項目として、従来からの「薬局見学」「病院見学」に加え、「介護福祉施設訪問」「不自由体験」「救命救急講習」を1年次生対象に新たに実施した。また、それまで病院見学後にはレポートのみで済ませてしまっていた部分に、まとめ学習の時間を設けた。「製薬企業見学」を2年次生対象に、「衛生行政機関の業務を知る」講演会を3年次生対象に実施した。その都度アンケート調査を実施し、学生の意識変化を調査した。

【結果および考察】3年次生を対象とした「衛生行政機関の業務を知る」講演会実施後には、麻薬取締官などは知っていた、あるいはそうした進路希望を持っているというアンケートの回答があった。「卒業生の活躍する現場」を体験できないまでも、こうした機会を低学年対象に提供したことは有効であったと考えられた。項目実施後のアンケート調査では、各項目の実施が学生の役に立ったとする回答はいずれも90%以上であった。一方で、1年次生ではいずれの項目でも90%以上が項目の実施により勉学の意欲が高まったと回答したのに対し、2、3年次生ではそのように回答したのは70%以下に留まった。これが実際に学生の行動へと結びついたのかは長期的視野で見守る必要があると同時に、「高いモチベーション」を6年間維持できるよう内容の改善を図る必要がある。